

令和4年7月1日

シルバー みはら

第88号

編集・発行

公益社団法人三原市シルバー人材センター
総務部会
〒723-0016 三原市宮沖五丁目9番32号
TEL 0848-63-2266 FAX 0848-63-5045
ホームページ <https://webc.sjc.ne.jp/mihara/index>

正会員

男性 579人
女性 264人
合計 843人
(令和4年6月30日現在)

設立40周年記念式 令和4年度 定時総会

公益社団法人 三原市シルバー人材センター



設立40周年記念式・令和4年度定時総会

令和4年度安全就業全国統一スローガン

「いつまでも、働く喜び、無事故から」

7月は「安全・適正就業強化月間」です。

就業会員一人ひとりが細心の注意と自覚を持って事故防止に努めましょう

設立四十周年記念式

式辞



後藤 正文
理事長

本日、ここに公益社団法人三原市シルバー人材センター設立四十周年記念式典を開催いたしましたところ、岡田三原市長様、陶市議会議長様をはじめ、ご来賓の皆様におかれましてはご多用のなか、ご臨席を賜り厚くお礼を申し上げます。

ところで、当センターは昭和五十七年六月二十一日に設立され、平成十七年四月一日に（社）本郷町シルバー人材センター・久井町高齢者能力活用協会・大和町高齢者能力活用協会を編入統合致しました。その後、平成二十三年四月一日には広島県知事から公益社団法人として移行認定を受け、今日設立四十周年を迎えることができました。

この間、三原市をはじめ、国・広島県・並びに広島県シルバー人材センター連合会の皆様には多大なご指導とご支援をいただき、また、平成三十年の西日本豪雨災害で当センターの本郷

支所が水害を受けた際には、全国シルバー人材センター事業協会他から見舞金を頂き心から感謝を申し上げます。

さて、少子高齢化の進展により労働人口が減少し、労働力不足が深刻になっている今日、働く意欲のある高齢者の就業促進として、年齢に関わりなく多様な就業機会を提供し地域で働ける場づくりや、社会を支え活躍できる「生涯現役社会」の実現に向けての取り組みを進めています。シルバー人材センターへの期待や重要性は一層大きなものとなっております。

記念すべき四十周年という節目を迎えるにあたり、シルバー人材センターの基本理念である「自主・自立、共働・共助」に立ち返り、多様化する住民ニーズや社会変化に的確に対応しながら、高齢者が意欲と能力のある限り働くことのできるように、シルバー人材センターの更なる発展を図ってまいります。

今後とも、関係各位の一層のご支援とご指導を賜りますようお願い申し上げますとともに、会員の皆様のご健勝・ご活躍を祈念申し上げまして式辞と致します。

祝辞



三原市長代理
磯谷 吉彦
経済部長

公益社団法人三原市シルバー人材センター設立四十周年を迎えられましたことに、心からお喜び申し上げます。

長年の活動により、地域社会の活性化に大きな貢献をいただいておりますことに対し、あらためて敬意を表します。

また、市政運営に当たりまして格段のご支援とご協力を賜っており、この場をお借りして厚くお礼申し上げます。

三原市では、市内に居住する高齢者が仕事や生活の充実など、生涯活躍できる環境づくりに、関係機関と連携を図りながら取り組んでいるところであります。シルバー人材センターにおかれましては、新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも、これまでの知識・経験を活かし、各地域において社会経済の維持・発展に寄与されています。多様化する地域ニーズを的確に把握し、積極的な新規事業展開により、新たな就業機会の創造と活躍の場の増加を期待していると考えています。役割は大変重要であると考えていま

す。

今後も、事業推進のため市や関係機関との連携強化や、会員の拡大に積極的に取り組んでいただきますようお願い申し上げます。

結びになりますが、三原市シルバー人材センターの今後ますますのご発展と、会員様及び関係者様のご健勝とご活躍を心から祈念申し上げます、祝辞いたします。



三原市議会議長
陶 範昭

皆さん、こんにちは。

三原市シルバー人材センター設立四十周年記念式の開催にあたり、市議会を代表いたしまして、一言ご挨拶を申し上げます。

先ほど、永年勤続表彰をお受けになられました皆様、受賞、誠におめでとうございます。今後も健康で活躍されますことを祈念いたしております。

シルバー人材センターは、昭和五十七年に設立されて以来、地域社会の発展や高齢者福祉の向上にご尽力いただいております。役員、職員の皆様をはじめ、会員の皆様の活動に対しまして、深く敬意と感謝の意を表しますとともに

に、設立四十周年という節目の年を迎えられましたことに、心からお祝い申しあげます。

さて、日本は、いよいよ「人生百年時代」に突入しており、高齢化率が急激に高まる一方、「健康寿命」が延びていくという予測もあるようです。

そうした中、働く意欲のある高齢者の受け皿として、また、高齢社会を支える地域の中核的な組織として、シルバー人材センターの役割は一層重要なものとなっております。

本市議会といたしましても、高齢者が社会の一員として就業、地域活動、文化教養活動などの場面において幅広く活躍され、地域社会に貢献いただけるよう今後も支援して参りたいと考えております。

シルバー人材センターにおかれましては、引き続き、就業機会や会員の拡大に取り組み、事業の推進にご尽力賜りますようお願い申し上げます。

結びに、三原市シルバー人材センターの益々のご発展と、皆様方のご健康とご多幸を祈念いたしまして、お祝いのごあいさつとさせていただきます。



式典

設立四十周年記念式を去る五月三十日(月)午後一時三十分から三原市芸術文化センターポポロにおいて開催いたしました。

出席者は会員百五十名で、事務局の司会で進行され、後藤正文理事長の式辞で始まり、続いて三原市長代理の経済部長磯谷吉彦様及び市議会議長陶範昭様の祝辞の後、ご臨席をいただきました来賓の三原職業安定所長杉原淳司様、三原市社会福祉協議会会長馬越豊文様、三原市民生委員児童委員連合協議会副会長稲葉裕司様、三原市老人クラブ連合会会長福久勝彦様、三原市女性会連合会会長岡恭子様の紹介を終え、拍手で来賓の三原市長及び市議会議長をお送りした後、表彰式に移りました。

感謝状贈呈者七名の紹介の後、代表して医療法人清幸会三原城町病院総務課長鹿林敏男様に感謝状と記念品を贈呈しました。

続いて、会員永年二十年以上の三十一名、地域班班長副班長十年以上の十四名、職域班班長副班長十年以上の三名、役員十年以上の二名の紹介をし、それぞれを代表して会員二十年以上の福島成次様、正副班長十年以上の福田弘様、役員十年以上の平田里光様に表彰状と記念品を贈呈しました。
最後に受賞会員代表として平田里光様に謝辞をいただきました。

感謝状贈呈者(敬称略)

【発注者表彰】(七事業所)

医療法人清幸会三原城町病院、株式会社カジオカL・A、社会福祉法人松友福祉会、株式会社フジ・リテイリングフジグラン三原、株式会社三原美装社、一般社団法人三原観光協会、社会福祉法人本郷福祉会梅菅園

表彰状贈呈者(敬称略)

【会員表彰】 会員永年二十年以上(三十一名)

〔三原本部〕
新宅千尋、福島成次、井上エミコ、弓取エミコ、西原芳輝、安永治夫、中間久郎、石田忠征、吉田稔、河本英子、戸川勝己、藤田博久、中川和吉、村上純子、大本利美

〔本郷支所〕
土井忠、鴉越剛、森紀之、川井田清子、御堂丸光枝、佐々木昭和
〔久井支所〕
曾根益人、福田弘
〔大和支所〕
瀬尾正恵、竹内末子、梶田マサ子、豊崎満江、植村恵美子、竹森好江、福本光子、福定千代美

正副班長

〔地域班 十年以上〕
吉田稔、宮郷博明、中塚義明、久保川元、中川和吉、戸川勝己、丸谷重之、植英己、吉村成男、有田敏明、

奥村勝彦、福原寛徳、寺川昭晴、福田弘

〔職域班 十年以上〕
平田里光、吉田稔、小松弘衛

役員

〔理事 十年以上〕
平田里光、木村幸子

定時総会の挨拶 後藤正文理事長

皆さん、こんにちは。理事長の後藤正文です。
会員の皆様には大変お忙しいところ、ご出席いただきまして、有難うございます。

公益社団法人三原市シルバー人材センター設立四十周年記念式に続きまして、定時総会を開催いたします。
昨年、一昨年と新型コロナウイルス感染症のため、正常な総会を開催できませんでした。三年ぶりに皆様のご出席のもとに開催する事が出来ることとなりました。

本日の議案には、令和三年度の事業報告及び収支決算並びに、定款の一部改正といった内容が含まれております。
慎重にご審議のうえ、承認していただきますようお願いいたします。開催のごあいさつと致します。
どうぞ、よろしくお願いいたします。

令和三年度 定時総会報告

令和四年度定時総会が去る五月三十日（月）設立四十周年記念式に引き続き三原市芸術文化センターポポロにおいて開催されました。

出席者数は、会員数八三二名のうち六一五名（うち委任状四六五名）でした。総会は事務局の司会で進行され、後藤正文理事長の開会の挨拶で始まり、議長選出に移り、川口克彦会員が議長に選出されました。事務局から出席会員が定足数に達し、本総会が成立した旨報告があり、議事に入りました。議案は次のとおりです。

第一号議案 令和三年度事業報告 について及び第二号議案 令和三年度 度収支決算について

関連が深いため、第一号議案「令和三年度事業報告について」と第二号議案「令和三年度度収支決算について」が、一括して上程され、事務局より提案説明を行いました。令和三年度事業報告については、受託件数、契約金額、就業延人員とも、対前年度比で大きく減少しております。

主要な要因としては、新型コロナウイルスの影響で、公共と広島空港関連の就業等が減少したためとの報告をしました。

また、年度末の会員数は、年度内の

退会者が入会者より十八名多かったため減少していると報告しました。

令和三年度収支決算について、経常収益は三億四千三百六万二千七百九十二円、経常費用は三億五千八百八十六万六千六百八十八円で、差引当期経常増減額は八百八十八万三千二百七十六円の赤字となり、当期一般正味財産も八百七十一万三千二百七十一円減額となったことを説明しました。この後、中島監事から監査報告があり、質疑に入りました。

会員から赤字解消対策について質問がされ、事務局は令和四年度から事務費を十%から十五%に引き上げ、また現行三支所六名体制を六月から三支所四名体制として、経費を削減し赤字解消を目指すとの回答をしました。

その他、特に質問・意見等がないため質疑を終結し、採決した結果、満場一致で議案は原案のとおり承認されました。

第三号議案 定款の一部改正について

次に、第三号議案「定款の一部改正について」が上程され、事務局から定時総会を毎事業年度終了後二カ月以内から三カ月以内に開催することを可能にするとの提案説明をし採決した結果、満場一致で原案のとおり承認されました。

第二号報告 令和四年度事業計画 について及び第二号報告 令和四年度 度収支予算について

事務局から理事会において承認された第一号報告 令和四年度事業計画について及び第二号報告 令和四年度収支予算について、関連があるとして一括して説明を行いました。

令和四年度事業計画については、国庫補助金は横ばいで推移するなか、派遣事業の拡大及び請負契約の新規受注を図ることが重要となり、受注についても、引き続き公共部門の確保を図りながら民間企業や一般家庭からの新たな受注の確保に力を入れ、会員拡大については、新型コロナウイルス拡大前の令和元年度実績の八七一名を目標とする報告をしました。

また、安全就業については、就業途上の交通事故による一昨年十二月の死亡事故、今年一月の入院と重大な事故が続いていることから交通安全の啓発に努めるとともに、草刈時の二枚刃使用禁止、ヘルメットの着用義務化を重点項目として継続すること、適正就業についても、請負契約から必要に応じた派遣契約への切り替えを行い、長期就業者の交代やワークシェアリングを行い、引き続き公平・公正な就業に取り組んでいくと報告しました。

令和四年度収支予算については、経常収益を前年度より一億七千八百六十六万五千円少ない、三億九千五百四十六万

二千円と見込み、経常費用も前年度より一億七千八百六十六万五千円少ない、三億九千五百四十六万二千円と見込んでいますと報告しました。

次に質疑に入ったところ、会員から、禁止されている二枚刃を使用し事故を起こした場合の罰則について質問がされ、事務局から物損事故が中々減らないことから、ペナルティ金額現行一万円の増額を検討していると回答しました。

会員からは今後も楽しく就業できるようにしてほしいとの要望がされました。

また就業していない会員の割合について質問がされ、事務局から請負の就業率は七十七、七%とのことから約二割と回答しました。

その他、特に質問・意見等がないため質疑を終結し、報告を終了しました。

この後、岡田副理事長の閉会の挨拶をもって総会は終了しました。

